

事業実績報告書

様式2
(2021年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-52	講座名	木曽川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し水源の森で学び、遊ぶ
記載日	2022/1/31	団体名・企業名	NPO法人「みたけ・500万人の木曽川水トラスト」

〈講座全体の概要〉(300字程度)

木曽川水トラストの森は岐阜県御嵩町にある。巨大産廃処分場計画に関する住民投票で処分場を拒否した御嵩町民に感謝して創設されて20余年を経た。木曽川の恵みで繁栄する名古屋をはじめとする下流域都市圏市民に、上流に感謝するまなざしを持ってもらうことを企図して本講座を行った。座学に始まり、東海地方に特徴的な落葉性広葉樹林の観察、炭焼き、竹の除伐や簡単な竹細工体験、焼きあがった炭を使ってさんまを焼いて食べる、ヒノキなどの針葉樹の間伐や枝打ちの見学、古民家での餅つきなどを通じて、木曽川上流域中山間地帯の里山の自然と暮らしを学んでもらうことが出来た。子供に里山体験をさせたかったという子連れのファミリーの参加が多かった。第1回の座学への参加者が少なかったのが残念であり、今後の反省材料である。



※写真1の説明

古民家をお借りして餅つき。子供用の杵も準備した。

※写真2の説明

トラストの森での集合写真。この日は焼いた炭を出して、さんまを焼いて食べた。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

今回は台風や大雪もなく天候条件としては順調であった。しかし、コロナ禍の影響は避けがたく、参加者数が伸び悩んだ。申し込みをしたにもかかわらず直前になって発熱不参加の方もおられた。さらに、今回は4回通しの参加者が1家族のみで、1回だけの参加者が多かった。募集要項に書いてあるのでやむを得ないことだが、次回からは「通し参加が望ましい」という一文を加える必要があるようである。第1回の座学で、当NPO法人の成り立ちの背景となった産業廃棄物処分場計画をめぐる御嵩町の歴史、木曽川上下流間の不公平、下流域都市圏の責任などについて知ってもらうという企画の狙いが不十分となった。せめて第1回の参加を必須条件にする必要があるかもしれない。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)